

## —まちづくり計画策定にあたって—

### 1. 計画の趣旨

平成12年度(2000)作成の天津地区活性化ビジョンでは、4分野（生活環境づくり・人づくり・地域づくり・産業づくり）に視点をあて、方向性・事業計画案が提案された。その結果、10年間に達成されたものもあり一定の成果を得たが、予測しえない大きな変貌もあった。

これまでの10年を踏まえ、新たに天津地区のまちづくりの方向性・将来像を示し、町民の皆様の合意を得る計画案を示す必要がある。

天津地区が出雲市の重要な地点として発展するためには、今、何を行うべきか。活力あるまちづくりを行うことを目的として本計画を策定した。

### 2. 計画の位置づけ

#### — 天津をどんなまちにしたいか — テーマ『活力あるまち』

何事を行うにも活力、元気力、団結力が大切になる。天津地区のまちづくりは、テーマ「活力あるまち」を掲げ、次のようなまちづくりを目指す。

「支え合い、助け合い、ともに生きるやさしいまち天津」の実現

「住んだ人が郷土を愛する気持ちを持ち、私の故郷は天津だと言えるまち」

「天津はやっぱり住み良いところだと実感出来る活力のあるまち」

- ①だれもが笑顔であいさつが出来るまち
- ②子供や高齢者・弱者にやさしいまち
- ③住む人のための生活基盤や環境が整備されたまち
- ④安心して安全に暮らせ、ご近所どうしが助け合うまち
- ⑤新しく来た人を優しく迎え入れるまち
- ⑥素晴らしい風土や自然、そして古くからの歴史、文化を守り継承するまち

#### — 天津のイメージ — 『歴史、自然と水 輝きのまち』

出雲王国が存在した天津は、古くからの歴史があり、丘陵地と平野部は森に囲まれ、清らかな水が流れる。そのような天津を守り、より輝けるまちにする。

### 3. 計画期間

本計画は、今後10年間を見越して策定するが、昨今の急激な社会情勢の変化に即応できる「まちづくり組織」を立ち上げなければならない。

# 第 1 章 大津地区の概要

## 第 1 節 位置・地形

大津地区(大津町、大津新崎町、大津朝倉、枝大津町)は、出雲市の東端に位置する。

全体が南北に長く、南は船津町、宇那手町、朝山町に接し、西は上塩冶町、今市町に、北は今市町北本町、姫原、中野美保南、中野町に接している。また、東は斐伊川を隔てて簸川郡斐川町の阿宮、求院、出西、併川地区と相對している。

地区の南北は南の宇那手境と北の中野境とのあいだを直線に測って約 5 km、東西は神立橋から今市境の上成橋まで約 1.5 km、面積は 5.53 km<sup>2</sup> となる。

地形は、東に斐伊川が流れ、南は丘陵地になっている。地区の中心部を含め、北、西には平野が広がっている。

斐伊川放水路事業により、平成 8 年度(1996)から着手した開削部の掘削工事、拡幅部の堤防工事により来原地区の地形は大きく姿を変えた。

## 第 2 節 沿 革

明治 8 年(1875)、大津、石塚、朝倉の三村が合併し大石村となった後、明治 22 年(1889)にはこの大石村と村の中に町として独立していた大津町が合併し、簸川郡大津村が誕生した。

昭和 16 年(1941)には周辺 9 町が合併して出雲町が誕生した際(同年市制が施行され出雲市となる)、大津村もこれに加わり、出雲市大津町となった。

昭和 40 年(1965)には区画整理事業によって下大津の一部が今市北本町に編入され、昭和 43 年(1968)には、土地改良に伴う圃場整備事業により、中野町の一部が大津町切跡に編入された。

昭和 46 年(1971)には区画整理事業により新崎地区が「大津新崎町」になり、平成 13 年(2001)の北部第一土地区画整理事業により「大津朝倉」、平成 17 年(2005)には北部第二土地区画整理事業により「枝大津町」が誕生し、現在に至っている。

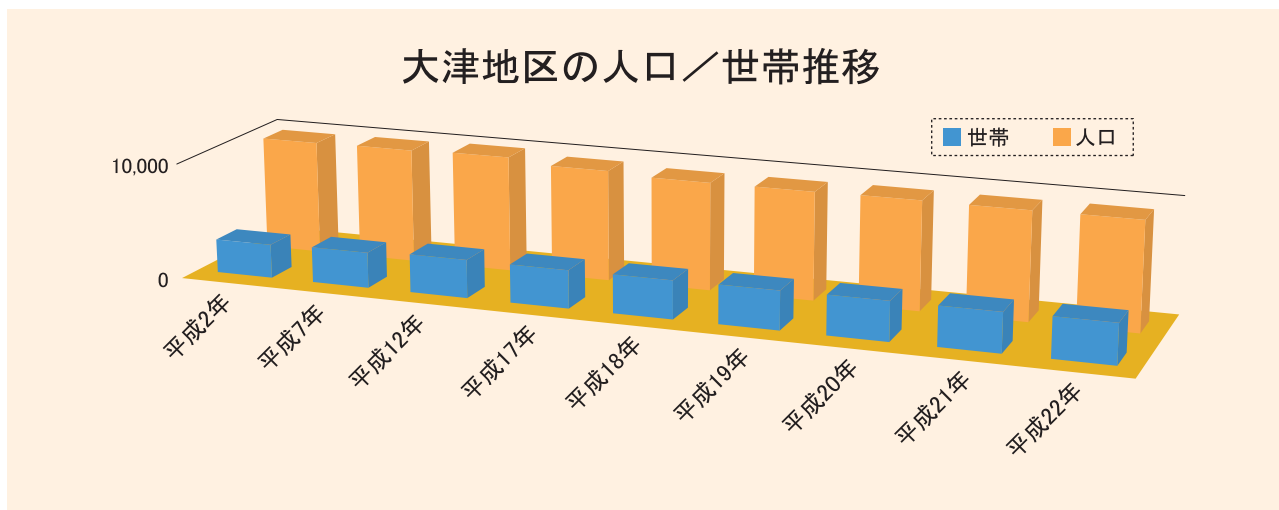
## 第 3 節 人 口

大津地区の人口は、平成 12 年(2010)頃までは増加傾向で推移してきたが、その後は少しずつ減少傾向にあるものの近年は 9,400 名程度で推移している。

減少の主な要因として平成 17 年(2005)～18 年(2006)に老朽化した市営来原団地、県営来原団地への入居停止、旧道(上成～町上)沿線の空洞化等があげられる。一方、国道 9 号出

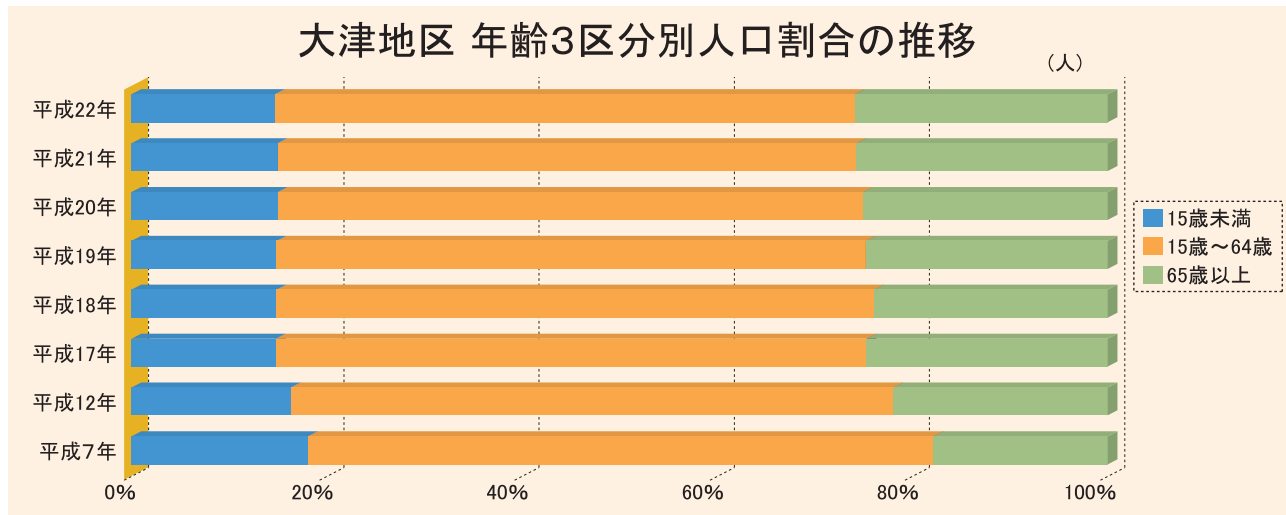
雲バイパスの開通、これに伴う土地区画整理事業が完成し、大津朝倉、枝大津町周辺には一戸建、アパート等の建築が進み新たな団地が形成され、この地域では穏やかであるが増加傾向にある。

	国勢調査				住民基本台帳の数値				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
世帯数(軒)	2,901	3,048	3,280	3,274	3,294	3,330	3,380	3,402	3,453
人口(人)	9,788	9,853	9,979	9,555	9,295	9,301	9,364	9,336	9,362



一世帯あたりの人数の推移を見ると昭和55年(1980)当時3.5人であったが、平成17年(2005)には2.9人となり平成22年(2010)3月末現在(住民基本台帳の数値)2.7人に減少した。主な要因として、若い世代を中心にアパートで暮らす単身者の増加、結婚後親世帯と別居し地区外に居住するなど、核家族化が進んでいることが考えられる。近年の経済状況の悪化がこのまま長期化すると、今後は同居世帯が増加し、世帯数は減少することが予測される。

	国勢調査				住民基本台帳の数値			
	平成7年	平成12年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
15歳未満	1,781	1,629	1,412	1,384	1,384	1,405	1,398	1,378
15歳～64歳	6,316	6,160	5,770	5,686	5,613	5,611	5,537	5,556
65歳以上	1,756	2,190	2,353	2,225	2,304	2,347	2,401	2,428



## 第4節 住 環 境

大津地区は、斐伊川、高瀬川の自然に恵まれ、古い史跡と歴史に富んだまちであり、出雲市の水源機能はもとより、商業や伝統産業、地場産業の拠点として役割を果たしてきた。しかし、近年、大津は静かな住宅地づくりを推進したため住宅が増えた。また、国道9号出雲バイパスの開通や北部第一及び第二土地区画整理事業、生活環境の変化に伴い、農地の宅地化が進み、地区外への事業拠点の転出が続いている。

## 第5節 子育て・教育・文化・スポーツ

### 第1項 子育て

#### (1) 家庭での子育て

核家族やひとり親家庭の増加、アパート、マンションの増加により、家族が地域のなかで孤立し様々な問題が起こっている。

少子化に伴い、地域の子ども会等での行事がなくなり、異年齢での交流が少なくなってきた。外での遊び場が減り、子どもたちの遊び方がゲームやインターネット等へ移行しているため、メディア、ゲームとの付き合い方、携帯電話の持たせ方を保護者が考えなければならない時代となった。

全国的にも児童虐待が社会問題になり、地域で対策協議会が設立されている。

#### (2) 地域の子育て支援

普段の生活場面で、地域の大人と関わるのがなく、地域としての子育て力の低下が指摘されている。そのため地域の行事を見直すなど、子どもが参加できる行事を地域で活性化させるなどの取り組みがなされるようになってきている。

地域をあげて子育てを支援するために、大津社会福祉協議会が中心になり「弥生の森子ども広場」を開設している。入園前の幼児と家族を対象とした「すくすくひろば」、妊婦から入園前の在宅幼児対象の「ぴよっこクラブ」、夏休み中の小学生を対象に「夏休みおさらい教室」があり、民生児童委員やボランティアなど地域の人たちがスタッフとして支援している。

放課後児童健全育成事業として大津第1児童クラブ、大津第2児童クラブがあり、小学4年生までの児童が利用している。



大津児童クラブ

施設の老朽化などの問題がある。

近年児童に対する事件が全国的にも多く発生するなか、大津地区においても不審者による児童に対しての事件が多く報告されるようになった。そのため、地域住民が自発的に児童見守り活動を行う「大津ほのぼのネットワーク」を立ちあげ、あいさつ運動、交通安全指導も含め、活発に行われている。

【大津ほのぼのネットワークの構成団体】

・青パト隊 ・慶友会 ・小学校登校時見守りボランティア ・福祉委員 ・愛育委員など

## 第2項 教 育

大津地区は、保育園、幼稚園、小学校、中学校、高校の子育て、教育施設が整っている。園児、児童、生徒数の推移をみると、近年の少子化の影響もあり減少が顕著である。

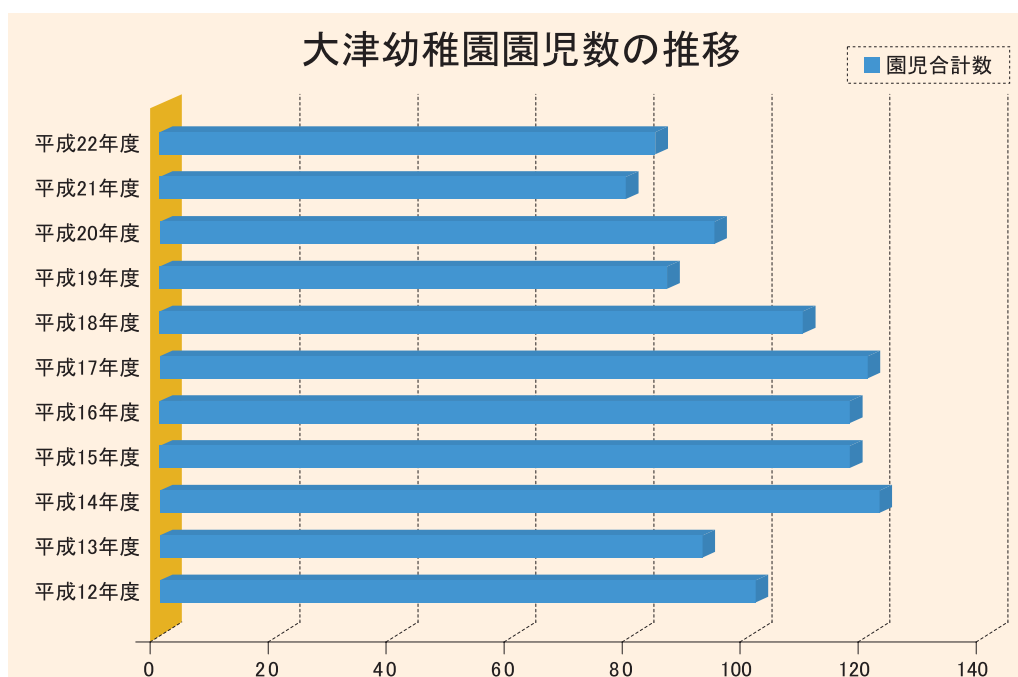
### (1) 幼稚園、保育施設

地域の子育ての中核施設として、大きな役割を担っている。

子育て支援のニーズは年々増加、多様化してくるなか、保護者支援も大きな役割とし

### 大津地区認可保育園の定員数

施設名	定員数(名)	住 所	電 話
一の谷保育園	45	大津町3627-8	30-7077
おおつ保育園	45	大津町2373-1	22-1124
きんろう保育園	90	大津新崎町7-59	22-1313
すぎの子保育園	90	大津町1608-20	22-8003
たちばな保育園	180	大津町1409-3	21-8080
合 計	450		



て位置づけられている。

各園に地域の様々な団体が訪問する、地域の行事に子どもたちが参加するなど地域のなかでの子育てを積極的に進めている。

保育園は、経済状況の悪化、女性の社会進出、核家族化等の家族形態の変化などにより、入所希望者が著しく増加している。

全国的に保育園の待機児童が社会問題化し早期解決が叫ばれる反面、幼稚園の定員割れが顕著となり、施設利用と幼児教育の一本化が論議され、国において保育園と幼稚園のあり方が検討されている。

## (2) 学校施設

### ① 出雲市立大津小学校

#### ・校庭芝生化

長年の懸案事項であった小学校校庭の芝生化が決定し、平成22年(2010)6月に大津地区住民、PTA、児童が参加し芝植えが行われた。

#### ・地域学校運営理事会設置

平成18年(2006)から地域学校運営理事会を設立し、地域住民が小学校の運営に参画することで、地域ならではの特色ある学校づくりを推進している。

#### ・一貫教育の推進

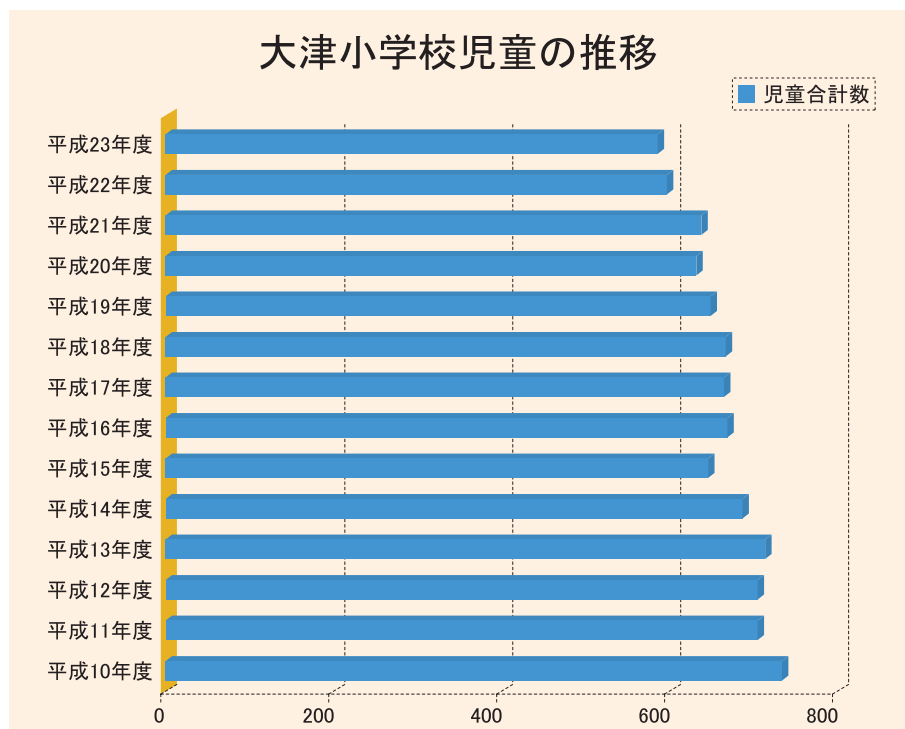
近年、「小1プロブレム」と呼ばれる問題が注目され、授業に参加できない、私語が絶えない、歩き回るなど幼児のような小学生が増えている現状がある。

対応として、保育園や幼稚園からのスムーズな就学が必要と考えられ、保育園、幼稚園、小学校が連携を計り情報の交換

を図る。児童と園児の交流を盛んに行うことから、保育園、幼稚園、小学校の一貫教育への検討がなされている。

#### ・支援を必要とする子どもたち

近年、身体的、発達的に支援が必要な子に加え、学習障がい、多動性障がいなど支援を必要とする子どもたちが増え、特別支援対策、不登校対策の推進が急務である。



- ・メディアと子どもたち

メディアの多様化が進み、インターネット、ゲーム、テレビの利用頻度が多くなり、生活のコントロールができない子どもたちが増加している。

子どもとメディアとの適切な関係を、親の責任において理解することが望まれる。

- ・学校と保護者の責任と理解

「モンスターペアレント」という新語が誕生した。子育て、教育における学校の責任と保護者の責任の区別が付きにくくなっているため、検討と理解が望まれる。

- ・地域の学校支援活動

学校施設及び備品の老朽化が進み、体育館や校舎の改修が必要な建物が増えた。また、急激な気象変化に対応する空調設備も不十分な状況にある。なかでもプールの老朽化は著しく児童が安心して使用できる環境とは言い難いため、改修が望まれる。

以前、大津小学校には町民が組織した教育後援会があり、図書、楽器、ユニフォーム、各種大会への参加費、輸送費などを支援していたが、平成10年(1998)に消滅した。近隣の小学校(今市、塩冶、高松、四絡、川跡、上津など)では、現在も地区住民が支援活動を継続している。

これらの現状から、近年保護者や地域住民から、自分たちのまちの小学校や幼稚園を、住民が力を合わせて支援することができないかという意見が多く出始めている。

地域学校運営理事会でも、市からの予算の現状、出雲市内の小学校の地域後援活動の実態が報告され、PTA、地域の各団体が協力した学校後援会の必要性が話し合われている。

- ・ゆとり教育の見直し

校内暴力、いじめ、登校拒否、落ちこぼれなど学校教育や青少年に関わる数々の社会問題を背景に、全人的な「生きる力」の育成が必要とのことで昭和55年度(1980)から検討が進み、平成14年度(2002)に週5制など「ゆとり教育」が始まった。

しかし、開始後10年間の調査により全国的に著しい学力低下が認められ、「ゆとり教育」見直しの論議が高まった。賛否両論があったが、授業時間の増加を教科ごとに行うことなどが検討されている。

- ・制 服

大津小学校の通学服は、平成5年(1993)に制服を廃止し、自由服になったが、制服の良さ、通学時の安全面などから制服化の話しが、保護者、学校から出始めている。

## ②出雲市立第一中学校

- ・地域交流事業

地域交流事業が盛んに行われ、地域の事業所や福祉施設などへ出掛け、職場体験を行っている。また、地区開催の祭りなどに積極的に参加し、住民から好評である。

- ・一貫教育の推進

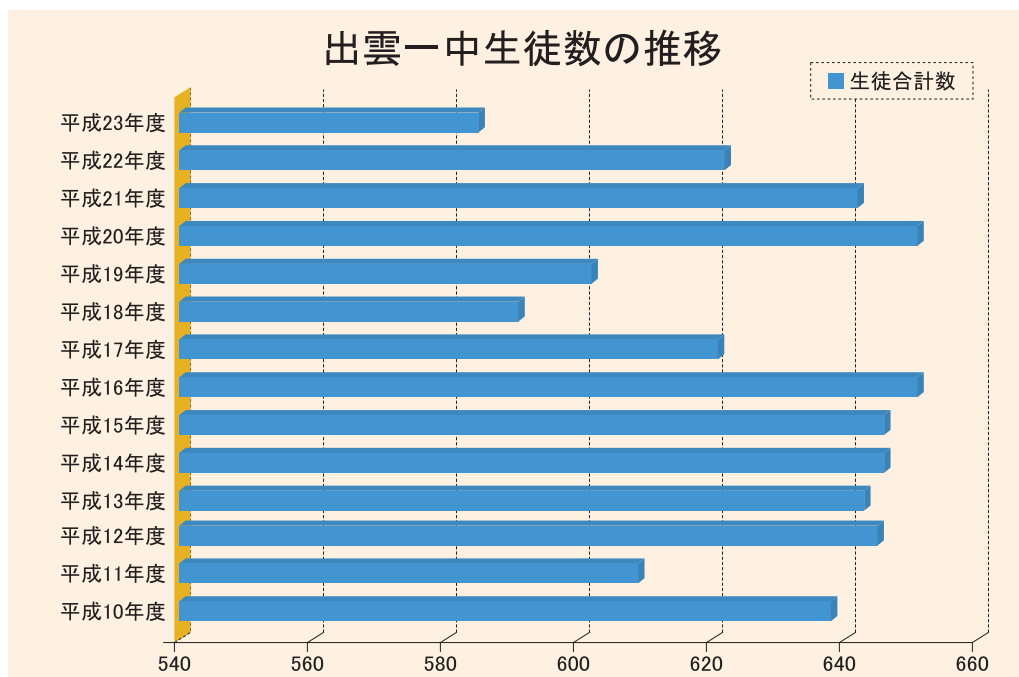
「中1プロブレム」では中学校に入学しても新しい環境に対して、精神的にも学力

的にも対応できないため、不登校になるなどの問題が多く起きている。

そのため、一貫教育の必要性が叫ばれ、出雲式小中一貫教育の充実を図り、小学校と中学校の交流授業などを行いながら、環境、学習のギャップに対応している。

- ・脱ゆとり教育

来春(2012)から中学校で使われる教科書は、平成16年(2004)の教科書と比べページが25%増え、昨年(2010)の小学校に続き、新教科書の登場で「ゆとり」教科書は義務教育の現場から姿を消すことになる。



### ③島根県立出雲商業高等学校

- ・地域に開かれた学校

「出商デパート」という企画を立ちあげ、学校を会場にした販売実習を実施している。また、地域を巻き込んだ活動も盛んに行っている。

中学生に対しての体験入学を実施し、開かれた学校を展開している。

企業の協力を得て、様々なビジネス体験を通じた勤労観、職業観を育成しているが、経済不況のなか、高校卒業生の就職内定率が年々低下している。



### 第3項 生涯学習

地区内及び近隣の公共施設には、施設が本来行う業務に加えて、多種多様な講座や生涯学習のための活動の場が提供されている。

- ①大津コミュニティセンター……………大津地域の生涯学習活動の拠点
- ②出雲市立出雲中央図書館……………生涯学習のための室や資料の提供
- ③出雲市男女共同参画センター……………男女共同参画啓発講座の開催



くすのきプラザ  
(男女共同参画センター)

#### 【近 隣】

- ①出雲科学館(今市)……………各種教室や出雲科学アカデミーの開催
- ②さんぴーの出雲(川跡)……………同 上

### 第4項 文 化

文化施設は、出雲弥生の森博物館、平野勲記念館、山田本陣(本山田家)などがある。

- ①出雲弥生の森博物館……………弥生の出雲王が眠る西谷墳墓群からの出土品など展示
- ②平野勲記念館……………出雲市出身の漫画家平野勲氏の作品展示など
- ③山田本陣(本山田家)……………江戸時代の本陣跡



山田本陣 (本山田家)

## 第5項 スポーツ

### (1) 大津体育協会

大津体育協会が主催する町民のスポーツ大会は、次のとおりである。

- ①体育大会、②野球大会、③ソフトボール大会、④卓球大会、⑤サイクリング、⑥バレーボール大会、⑦ゲートボール大会、⑧ハイキング

町民体育大会は、戦後間もない昭和23年(1948)に出雲市内の他地区に先駆けてスタートした。平成22年(2010)に第60回大会が実施されたが、大津小学校校庭の芝生化に伴い、競技内容の大幅な見直しが行われた。



大津町民体育大会

### (2) 体育指導委員……………1名

市から委嘱された委員が、地域においてニュースポーツの普及などを行う。

### (3) スポーツ少年団(クラブおろち)

- ①野球、②剣道、③バドミントン、④F Cおろち(サッカー)、⑤ミニバスケット(男)、⑥ミニバスケット(女)



おおつ健康サークル

### (4) 地区の体育協会

町内によっては、大津体育協会が開催する大会の世話をするチーム代表幹事や体育委員に負担が掛かるため、町内独自の体育協会を立ち上げ、年間を通じて活動している。

### (5) その他の団体

- ①大津グラウンドゴルフ協会  
②大津健康サークル  
(健康づくり)  
③さんぴーの健康サークル  
(健康づくり)



さんぴーの健康サークル

#### ④出雲ファーストクラブ

このほか、大津コミュニティセンター専門部(青少年部、スポーツ健康部)、大津社会福祉協議会(青少年部、地域福祉部)において、それぞれ健康増進の企画を実施しているが、今後は地域の課題や可能性をふまえ、体育協会を中心に各団体が情報の共有化を図りながら、一体となった事業の展開が望まれる。

#### (6)施 設

大津地区には専用のスポーツ施設はないが、神立河川公園や近隣には出雲体育館(今市)、サン・アビリティーズいずも(今市)、さんぴーの出雲(川跡)がある。

### 第6項 公園・遊園地・広場

大津地区には西谷墳墓群史跡公園、神立河川公園、くすのき広場など行政が管理する約1,000㎡以上の公園が13施設、地元などが管理する1,000㎡未満の遊園地などが15箇所整備されている。北西地域に集中しているが、幼い子どもから高齢者が安全に遊び、くつろげる公園などの施設は、歩いて行ける場所への配置・整備が望まれる。【資料編48頁】

### 第7項 祭り・イベント

自治協会や商工振興会が主催する大津地区全体の行事としては、平成22年(2010)の開催が62回になる「おおつ斐伊川まつり」、18回になる「大津ふれあいまつり」があり、町をあげたにぎわいととともに町民が広くふれあう場となっている。近年は商工振興会を中心とした「とんど」、「節分」などの伝統行事が復活し、町民から歓迎されている。

斐伊川大津神立橋下流での花火大会は、戦後大津の灯籠流しとして始まった。夏祭りの花火大会になり、その後、出雲市主催の「いずもオロチ祭り」に組み込まれ、市民あげてのイベントになったが、平成15年(2003)に会場が川跡地区に移るなど、一時期、大津地区での花火大会はなくなった。しかし、大津商工振興会などの尽力により、平成21年(2009)から大津町民の花火大会として復活した。

出雲神話まつり花火大会は、今年(2011)8月から再び神立橋下流を会場として開催することが決定した。

また、大津西商工振興会が主催する高瀬川とうろう流し、各地区の大文字などがある。

さらに、平成22年(2010)から新しく弥生の森お月見コンサートが開催された。

神社は、阿須利神社、三谷神社、雲根神社、潮井神社、秋葉社、大歳神社などがあり、例大祭や季節毎の祭事には町民が参詣する。仏閣は、円光寺、光明寺、西光寺、妙仙寺、祐宗寺などがある。仏事としては、各寺院の祭りや持ち回りで行うはなまつり、戦没者慰霊祭が営まれる。

この外、任意(奉仕)団体主催による地域の催しや、町内によっては、独自に文化祭、敬老会、子供会、納涼祭、とんど祭り、七夕まつりなどを開催し、近所づきあい、ふれあう場をつくるなど安心安全なまちづくりを行っている。

## 第6節 産 業

### 第1項 農 業

大津地区の農業の現状は、農業従事者の高齢化、農地の宅地化、耕作放棄地の増加が著しく進み、農業生産量、生産額とも低下の一途をたどり続けている。水田面積は約20haで、1反当たりの収量を500kg、米を1人年間70kg食べるとして換算すると、大津地区の人口約9,400人のうちの1,400人余りの米しか賄えない状況である。近年、わずかではあるが、地区内で生産されている米、野菜等の農産物直売所への出荷が徐々に増えつつある。また、貸農園等の整備も少しずつ進んできた。



大津町民ふれあい農園

### 第2項 商 工 業

明治以来、大津の商工業は急速に発達し、町上から一畑電鉄大津駅間のまちどおりには数多くの店が点在した。【資料編49頁】

呉服商、菓子屋を見ても、地元大津を相手にする店舗数にしては多く、当時の大津の商工業がいかに近郷の村々をとりこむ大きなものであったか伺える。またこの図には示されていないが、古くから瓦屋、製糸関連の製造業なども活発な事業活動を行っていた。

近年は旧国道沿いの商店が減少している。その原因として、近隣地区への大型店の出店、経営者の高齢化、後継者不足、駐車場が未整備など車社会への対応の遅れなどが考えられる。近所に食料品や日用品の店がない、歩いて買物に行けない、大型スーパーは大津地区の西部に偏っているなど、高齢者を中心に買い物弱者から不安が高まっている。

一方、工業、製鉄業、産業の分野では、50人を超える企業はわずか3社しかないが、大津地区の住民が数多く就労するなどまちを支えている。

## 第7節 医療・福祉

大津地区には、17の医療機関【資料編55頁】と6つの歯科医院【資料編55頁】があり、島根県立中央病院や島根大学医学部附属病院などの総合病院にも近く、医療に恵まれた地域である。

また、福祉施設・介護事業所【資料編56頁】は14箇所ある。

## 第8節 水

大津地区は、斐伊川、高瀬川、来原浄水場など豊かな水に恵まれている。また、斐伊川の伏流水は、旧カネボウ、ダイワボウなどで大量の上水が使用されていた。江戸時代に松江藩主をお茶でもてなす際に使用した3銘水(西光寺：雪の井、円光寺：月の井、涼池院：華の井)がある外、大社銘酒では酒造りに使用されていた。

川の環境を守るとともに、四季折々の風情を楽しみ、いつまでも大切に使用したい。

## 第9節 環 境

大津地区は、宅地化が進んでいるものの緑はまだ多く、花と緑でまちづくりに貢献している市民グループもある。

子どもたちに裸足で元気いっぱい校庭を走りまわってほしい、スポーツ振興、緑化推進、地球温暖化防止などの観点から、平成22年(2010)には大津小学校、大津幼稚園、たちばな保育園の校庭や園庭が芝生化された。また、21年(2009)は神立河川公園も芝生化されている。これらの維持管理には、子どもたちやPTA、多くの町民が関わっている。

毎年春と秋には、大津環境保全連合会の主催で地区をあげたクリーン大作戦を展開し、平成14年(2002)から「ISO530(いずもおおつゴミゼロ)運動」に取り組み、各種啓発活動を行ってきた。また、コミュニティセンターにリサイクルステーションを設置し、古紙や廃食油の回収を行ってきた。平成21年(2009)7月から市内の多くのスーパーでレジ袋の無料配布が中止になり、買物にマイバッグを持参する人も増えた。大津地区でもゴミの減量やリサイクルなど環境に関する意識は高まってきているが、一方でゴミのポイ捨ては後を絶たず、また、紙リサイクルステーションに出される古紙の分別が不十分など、マナーの向上が求められる。



高瀬川(妙仙寺川流入口)